



令和2年11月27日(金)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 河崎 晃二

# 開四小だより

## 12月号

### 学び合い、成長する開四小の子供たち

副校長 佐藤 和枝

毎朝校門近くで子供たちを迎えていると、ほとんどの子供が「おはようございます。」と挨拶をしています。「おはようございます。」と読んで、子供たちのどんな姿を思い浮かべるでしょうか。

10月から11月にかけての看護日誌（教員が交代で児童の学校生活の様子を記録するもの）には、「挨拶の声が大きくなってきている。」「挨拶、会釈がすごくよくなった。変化が大きい。」「以前に比べ、立ち止まって挨拶をする子が増えてびっくりした。」「朝の挨拶で、お辞儀をしている児童が増えていると感じた。」という記述が続いています。私も、お辞儀をしたり立ち止まって挨拶をしたりと、丁寧に挨拶する子供たちが増えたことを実感しています。

なぜこのように子供たちが急に変化したのでしょうか。その答えは、6年生の「伝統の鍵プロジェクト2020」にありました。開四小には、最高学年が下学年に伝えていく伝統の鍵（「かきゅうせいのおせわ」「きもちよいあいさつ」「ききじょうず」）があります。6年生が、自分たちの力で学校を変えようとしたら、伝統の鍵のどれができるかを話し合い、挨拶について取り組んでいるところなのです。

まずは、カウンターを片手に挨拶する子供の人数を調べたり、校門に立って、登校する子供たちに「おはようございます。」と声を掛けたり、校長・副校長にどのくらいの割合で子供たちが挨拶をしていると感じているかのアンケートを取ったりと、実態把握を行いました。そして、グループごとに考えた解決策をプレゼンテーションし、選ばれたものを今実践しているところです。先週は、朝の放送で、「今日の挨拶のめあて」を話していました。これは、前日の挨拶の様子を振り返って担当グループが決めていたそうです。私も朝の挨拶時にビデオカメラを向けられて、インタビューされました。他にもいくつかの解決策を準備していて、後日全校児童に発信するそうです。

一方、2年生の教室にはこんな掲示物がありました。「いつもしげんにする。」「やさしく、やわらかくする。」「え顔でする。」「止まってする。」「あい手より先にする。」「声の大きさに気をつける。」「おじぎまでしっかりする。」「せすじをびんとのぼす。」「頭を下げる。」「あい手を見てする。」これは、道徳で挨拶について学習したときに、6年生に気を付けていることを教えてもらったものです。挨拶と言えば「元気になる。」しか思い浮かばなかった2年生が、6年生のレベルの高さに触れ、自分たちもここをめざそうと思ったようです。

このように、開四小の子供たちは、自分たちの学校をよりよいものにしようと主体的に考え、様々な人と対話し、問題を解決しようとしています。最上級生である6年生の姿を見て、2年生だけでなく、他の下学年もよい学びをしているのではないかと思います。これからも、教職員の力を合わせて、互いに学び高め合うことができるような指導を行ってまいります。

この活動が発展し、「開四小の子供たちはどこで会っても気持ちのよい挨拶ができるね。」という保護者・地域の皆様の声が聞こえたらどんなにうれしいことかと思っています。

今年度は、感染症拡大防止のため、練馬区立美術館での連合書きぞめ展及び連合図工展は中止となりました。学校での展示会は実施する予定です。詳細は後日お知らせいたします。